



新明小だより

東松山市立新明小学校
学 校 だ よ り
1 0 月 号
令和8年 10月 1日



学校教育目標 まなぶ・つながる・やりぬく

～ 新たな挑戦 明るい未来へ 希望あふれる新明小学校 ～ 校長 稲村 浩之



ゆでガエル「これくらいなら大丈夫？」～10月のお話集会より～

2学期が始まって、まもなく一か月が過ぎようとしています。新しい目標に向かい順調に進んでいる人もいれば、思うように進んでいない人もいるかもしれません。

今日は、「ゆでガエル」の話をします。

あるところに、二匹のカエルがいました。ある家のキッチンからおいしそうな匂いがしてきたので、二匹は窓から中に入りました。

そこには、二つの鍋がありました。一つは、すでに熱くなった鍋。もう一つは、火にかけたばかりの、まだ冷たい鍋です。一匹は熱い鍋に、もう一匹は冷たい鍋に飛び込みました。さて、どちらのカエルが生き延びたでしょう。

答えは、熱い鍋に入ったカエルです。熱さに驚いて、「これは大変だ」とすぐに鍋から飛び出したからです。一方、冷たい鍋に入ったカエルは、「これくらいなら大丈夫」と思っているうちに、少しずつ温度が上がっていききました。変化がゆっくりだったため気付くことができず、鍋から出られなくなってしまった、という話です。

もちろん、これは「ゆでガエル」と呼ばれるたとえ話で、本当にカエルがそうなるということではありません。

しかし、私たちの生活にも似たことがあります。最初は「気を付けよう」と思っていたことが、慣れるうちに少しずつ忘れられてしまうことがあります。

「これくらいならいいかな」と思った小さなことが、いつの間にか当たり前になることもあります。

例えば、友達をからかったり、いじったりすることもそうです。「これくらいなら大丈夫」「仲がいいから大丈夫」「冗談だから大丈夫」と思っている、言われた相手は嫌な思いをしているかもしれません。最初は小さなことでも、「これくらいなら大丈夫」と繰り返しているうちに、相手を傷つけることに気付かなくなり、そして、それが少しずつ大きくなってしまふこともあります。

だからこそ、学校生活に慣れてきた今、一度立ち止まって、自分の言葉や行動を振り返ってみてほしいと思います。

「今の言葉、相手はどう感じたかな」

「自分は楽しいけれど、相手も楽しいのかな」

「もし自分が同じことをされたら、どうかな」

こうしたことを考えることは、友達を大切にすることにつながります。

また、友達の様子を見て、「何かいつもと違うな」「少し嫌そうだな」と気付くことも大切です。小さな変化に気付くことが、大きな問題を防ぐことにつながります。2学期はまだまだ続きます。

今の自分に気付き、友達の気持ちにも気付きながら、少しずつよりよい自分へと成長しましょう。

「誰一人取り残さない 誰もが笑顔で通える学校」を、みんなでつくっていきましょう。

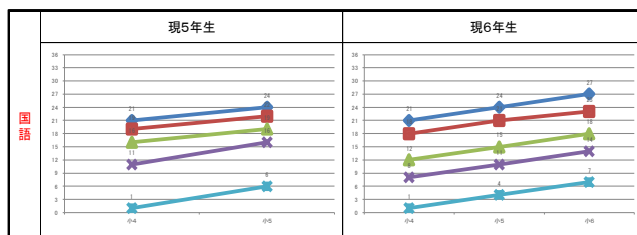
埼玉県学力テストの考察より ～学力の伸びが顕著です～

【すべての学年・全層での理想的な
「右肩上がり」！】

国語では、学年や得意・苦手にかかわらず、みんなが着実に力を伸ばしていることが分かりました。特に「言葉の特徴や使い方」をしっかり理解して使う力がついており、埼玉県全体の平均と比べても本校の大きな強みになっています。日頃の学習や音読、詩の暗唱等の積み重ねが、しっかりと実を結んでいます。

今年度から始めた文科省の研究を通して、さらなる学力向上を図ってまいります。

※裏面に続きます



- ◆ ⇒ 最大値（最も学力が高い児童・生徒が属する学力のレベル）
- ⇒ 75%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて25%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル）
- ▲ ⇒ 中央値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて50%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル）
- × ⇒ 25%値（学力の高い順に並べたときに、上から数えて75%にあたる児童・生徒が属する学力のレベル）
- ★ ⇒ 最小値（最も学力が低い児童・生徒が属する学力のレベル）